令和３年度　大阪府立伯太高等学校運営協議会　第３回議事録

令和４年２月２６日(土)　１０：００～１２：００

記録：小川

協議会委員参加者

角　朋子　（令和３年度ＰＴＡ会長）・運営協議会会長

田中　恒子（地域教育相談員）

山野　正広（和泉市総務部人権・男女参画室長 ）運営協議会副会長

西田　芳正（大阪府立大学教授）

富永　順三（ナレッジパートナー代表取締役）

学校教職員参加者

大崎　弘司　（校長）

北出　眞理　（教頭）

津田　等　　（事務長）

小川　敏和　（首席）

（１）　令和３年度　学校経営計画の評価　～令和３年度学校教育自己診断の分析と評価を踏まえて～

（２）　令和４年度　学校経営計画の概要

（３）　本年度の進路指導について

（４）　会長挨拶

（５）　校長謝辞

［主な報告、質問、意見等］◇は報告内容、○は質問、→は答え、●は意見や感想

学校教育自己診断について（首席より）

（１）確かな学力の育成

◇コロナ禍が続く中、授業の形態や内容に制限がかかることが多く、グループ学習や発表の機会が十分に持てていない現状が続いている。そのため、生徒および教員用双方のアンケート項目において、関連する項目の数値が伸び悩んでいる。

（２）将来の目標に向かって努力する生徒の育成

◇生徒指導面において、生徒の指導に対する納得できるかという点で数値が伸び悩んでいる。統一感を持って指導にあたるということがこれからも必要になるということも勿論だが、生徒への経年での指導や経過の状況が一人ひとり違うため、それを伝えることも難しさも残る。

◇進路指導面において、授業を通して進路について考える機会が増えたと感じている生徒が増えた。GS の授業を通して、企業や上級学校の方々に来ていただき、講演をしていただいた。形態としては、企業の人事担当者や上級学校の広報担当者から業界や分野についての概要を話していただき、その企業に勤めている卒業生や上級学校に通う卒業生から、自分が進路を考え始めた時期や理由、高校生活で頑張ったことなどについて、在校生に直接話をしてもらった。この時間を持てたことが、進路について考える機会が増えたと感じている生徒が増えた要因であると考える。

（３）安心安全で魅力ある学校づくり

◇伯太高校を選んだ理由について、総合学科である、を理由に挙げる生徒の数がここ数年で初めて１位になった。総合学科そのものの認知が進んだことが考えられる。今後はカリキュラムの改定や観点別評価の導入により、変化が求められるので、対応しながら総合学科の魅力を発信していきたい。

〇コロナの影響でどれくらい学校が閉まったのか？

→昨年度と今年度で臨時休校や生徒の出席停止の条件が変わった。今は一定、学校で状況の確認・整理をしてから、保健所や教育委員会と連携を取りながら進めている。比較的、休校や学級閉鎖は府内で見ても少ないほう。

学校教育計画の振り返り（校長より）

◇次年度入学生から、評価方法が観点別評価へと変わっていくので、それに合わせて授業のあり方が変わってくるので、いろいろと工夫が必要になってくる。

◇アンケートから読み取れることとして、将来や進路について考える機会を設け、取り組めるように設定しているが、「考える機会がない」、「情報を知らせてくれない」と感じている生徒がいるため、生徒の捉え方に不安が残る結果となっている。進路決定に向けての向き合わせ方として、否定的に考えないようにさせることも考えていかなければならない。

◇遅刻数はここ数年再び増加傾向にあるが、遅れてでも学校に来る、足が向いている生徒もいる状況があることも事実なので、この状況をしっかりと受け止めて生徒と向き合っていかなければならない。

◇人権教育については、中身を変えてはいないが、数値が下がってきている。これをどう捉えてこれからの人権教育にあたるかを考えていかなければならない。

〇外部講師の方法や回数はどの程度の頻度か？

→GS（総合的な探究）の時間が２年生は１時間に２社、１年生は１時間に１社ずつ来ていただいた。昨年度はコロナの影響を鑑みて、企業側の躊躇いもあって実現できなかった。事前事後の指導も含めて年間で７，８回程度実施した。たくさんメモを取る生徒もおり、聞き書きの力（整理する力）も少しずつ

〇外部講師による講話は総合学科ならではなのか？

→産業社会と人間の時間と GS の時間を使えるので、融通は利きやすい。

●こういった取り組みは以前からやってほしいと思っていました。ぜひ継続してほしい。

次年度の学校教育計画の設定について（校長より）

◇観点別評価と１人１台タブレットが重点になってくる。しかし、タブレット導入に伴って、教育委員会から LAN 教室１部屋の廃止と AL ルームの縮小の話が出ている。したがって、タブレットの活用を基本に置いて考えていく必要がある。人に伝える力（プレゼン能力）を育てていくことも同時に進めていきたい。

●中学校でも現状、なかなかタブレットの指導は進んでいない。これからも課題として残ると考えている。

◇遅刻の回数については、令和３年度の振り返りの際にも伝えたように、遅れてでも学校に来る生徒、学校に足が向いている生徒との関わり方が今まで以上に大切になるので、目標数値を上方修正した。

●生徒の背景を見ながら目標値を設定し、指導にあたるのは非常に大切なことだと思います。

◇次年度のアンケートで出てくる数値については、１年生と２・３年生でカリキュラムや評価方法が変

わるので、意味合いが変わってくる。外部の人の力を借りて、学んだことを上手に言葉で伝えていけるようにしていきたい。専門学校等との連携協定も交えて、経験の浅い教員への支援を行う仕組みを整えていきたい。

◇将来的に仕事に就く際に、ワードやエクセルの操作といったPCスキルが必要になるが、タブレットの活用を考えた時に、PCと違ってキーボード操作がなくなることがその後に与える影響が大きいと感じている。キーボード操作ができるかできないかは今後、重要な問題になり得ると考える。

本年度の進路指導について

◇コロナ以降は学校斡旋就職を希望する生徒が減り、専門学校を希望する生徒が増えている。大学・短大を希望する生徒は例年とほとんど変わらないが、受験する入試方法に変化が見られる。指定校推薦を希望する生徒が減り、総合型選抜や学校推薦型選抜など、授業で身につけたプレゼンテーション能力などを活かして受験する生徒が増えてきた。

◇学校斡旋就職における問題事象は減ったが、コロナ禍でのオンラインでの職場見学や面接の問題点も見えてきた。企業が職場見学や面接の様子を録画する企業が出てきている。名前や生徒の様子が記録として残ってしまうため、録画を見返すなど公正な採用に影響が出てき兼ねない。

会長より

●１年間、会長を務めさせていただき、学校の中の様子を見ることができて良かったと思っています。ありがとうございました。